

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果から①（小学校編）

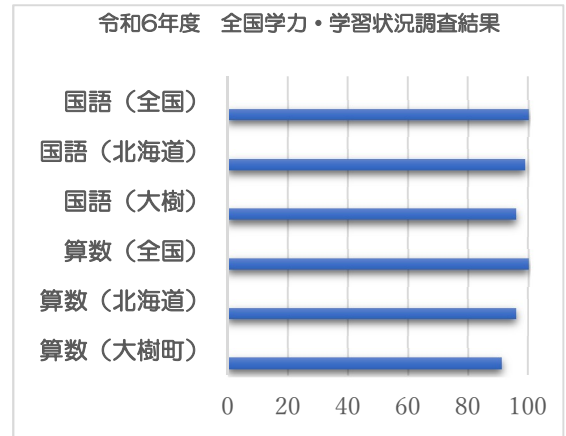
全国学力・学習状況調査は、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証、その改善を図るとともに、教育指導の充実や学習状況の改善などに役立てることを目的として、小学6年生と中学3年生を対象に、平成19年度から実施しています。

令和6年4月18日（木）に実施した調査結果の概要と改善のポイントを大樹町教育研究所の協力でまとめましたので、小学校編と中学校編の2回に分けてお知らせします。

結果の概要と改善のポイント

令和6年度の調査は、国語と算数2教科の調査となりました。残念ながら2教科ともに全国平均には届きませんでした。国語の「知識及び技能」の正答率の向上が見られたり、算数の記述式問題の正答率の向上が見られたりなど、昨年までの課題に基づいた取り組みの成果が表れています。

今後、本調査で明らかになった課題について、学校全体で授業改善に取り組み、児童の学力と学習意欲の向上を図っていきます。



	結果の概要	改善のポイント
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○「我が国の言語文化に関する事項」など、「知識及び技能」の正答率の向上が見られる。 △「話すこと・聞くこと」について、資料を活用して自分の考えを表現することに課題が見られる。 △「書くこと」について、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●日常的に資料を活用してスピーチをするなどの活動を取り入れ、自分の考えが伝わるように表現を工夫する指導を充実していく。 ●全校で行っている日記の取り組みを継続し、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する指導を充実していく。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ○記述式問題の正答率の向上が見られる。 ○「思考力・判断力・表現力」の正答率に向上が見られる。 △「知識・技能」の正答率が低い。「円の直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について」など、基礎的内容が定着していない傾向がある。 △問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●一人一人の学びの状況を把握し、指導に生かしていくなど、「指導と評価の一体化」を意識した授業を行っていく。 ●一人一人が課題に対して自分の考えをもてるように、算数の「見方・考え方」を意識した授業を進めていく。 ●朝学習を充実させるなど、基礎的内容の定着を目指し、反復練習を継続的に行っていく。
学習状況から	<ul style="list-style-type: none"> ○睡眠時間や朝食など、基本的な生活習慣が整っている。 ○友だち関係に満足している児童が多い。 ○授業でのタブレットの使用について、使用頻度が高く、効果を肯定的に捉えている児童が多い。 △テレビゲームをする時間が長い。 △家庭学習に取り組む時間が短い。 	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもの思いに寄り添う生徒指導の成果が見られるので、今後も続けていく。 ●今後も、タブレットなどのICT機器を積極的に活用し、「身に付ける力」を意識した授業を進めていく。 ●家庭学習の必要感を高めるために、取組の成果や時間の積み重ねがわかる取り組みを進める。また、家庭との連携を大切にしていく。